



しゃきょう

2020年8月号 178号

社協だより

●発行 社会福祉法人三宅島社会福祉協議会 〒100-1211 三宅島三宅村坪田 3053 電話 04994-8-5888



平成31年度三宅島社会福祉協議会事業報告

事務局長 齋藤央

コロナの影響で開催を控えた理事会・評議員ですが、書面による同意をもって平成31年度の事業報告並びに決算が承認されました。改めてみなさまにご報告申し上げます。

令和31年度は新たな事業展開が各担当職員から提案され実現しました。訪問介護事業では天皇即位に伴う10連休や年末年始において、ケアマネージャーと連携し活動を行いました。31年度の活動件数は大幅に落ち込んだ一昨年度と比べ500件増の5,867件となりました。訪問介護の活動が広くみなさまの支援にお役にたっていることの表れであります。また、広報誌は島外福祉作業所と提携しカラー刷りの広報誌の発行を行いました。障がい福祉事業では、村民利用者による障害者総合支援法下のサービスを利用した島外学習を行いました。福祉サービス利用支援事業で村長申し立てによって後見制度との併用利用を実現し、今後の法人後見への見通しも持つことができました。ボランティア事業では教育機関との連携強化し教育課程につながる下地をつくりました。また大風19号接近時は行政と連携した要支援者への支援体制の協力をしました。課題が浮かびあがると同時に福祉ニーズも生まれ、個々に対応すべくそれぞれ協力して実践へと結びつけることができたと評価しています。

決算報告について簡単に申し上げます。平成31年度は地域福祉推進事業では車輛廃棄に伴う購入費用が複数台でありました。固定資産取得支出が大幅に増えたので、当該年度の資金収支では592千円のプラスでした。また、訪問介護事業では前述の通り活動件数の増加により、当該年度事業活動収支では2,337千円のプラスとなりました。

コロナ禍の影響で先の見通しが付きにくい現状ですが、今後も各機関と連携しながら、個々のニーズに対応する地域福祉の推進に邁進してまいります。

新しい理事、評議員の紹介：前任者の退任・異動等に伴い役員等に変更がありましたのでご報告いたします。理事長谷川靖子氏（社会福祉法人あじさいの里理事長）、理事伊藤真也氏（総務局三宅支庁総務課長）評議員浅沼多津子氏（三宅島民生児童委員協議会副会長）

平成 31 年度三宅島社会福祉協議会事業報告

1.地域福祉事業

地域福祉事業での主な活動の内容は「三宅島福祉まつり」「ふくしバザー」「介護用品の販売」「福祉用具のレンタル」「通院送迎サービス」「住民活動への助成金」を行いました。

2.広報事業

広報誌「社協だより」を毎月発行しました。ホームページの更新やツイッターの更新を行いました。

3.高齢者福祉事業

「三宅島高齢者ふれあい会食会」「三宅村高齢者おむつ代助成」「三宅村高齢者日常生活用具助成」を行いました。その他、三宅村敬老会への協力、各地区老人クラブを訪問しました。

4.ボランティア福祉事業

「ボランティア保険の助成」「ボランティア・行事保険の受付」「夏のボランティア体験」「男性のための料理教室」を実施しました。

5.障がい者福祉事業

三宅村地域活動支援センター事業及び三宅村心身障がい者地域緑化推進事業の実施をしました。

6.福祉サービス利用援助事業

認知症高齢者をはじめ判断能力が十分でない方を対象とした、地域福祉権利擁護事業と緊急一時事務管理を行っております。相談件数は大幅に増加し、様々な課題に対応いたしました。弁護士などの専門家や三宅村役場など関係機関と連携し、ご本人の尊厳を大切にされた支援をいたしました。

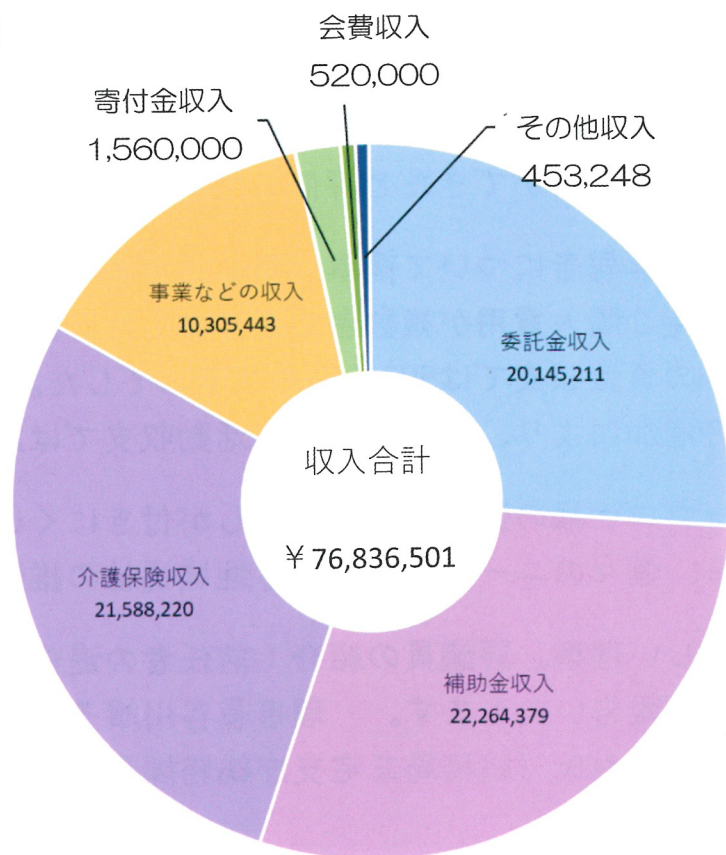
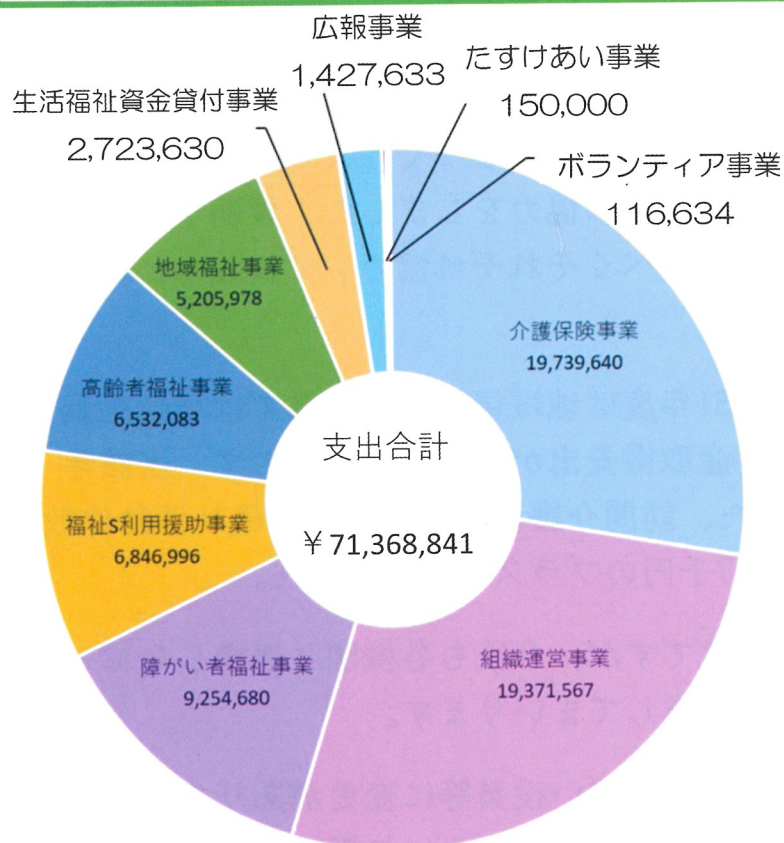
7.訪問介護事業

ご利用者ひとりひとりのニーズや状況変化に対応した支援を行いました。増加する認知症利用者への支援や終末期を迎えた方の支援など幅広い業務や専門的な判断を担う事も増えており、ヘルパー個々の支援技術の向上に努めました。

8.生活福祉資金貸付事業

東京都社会福祉協議会からの受託事業「生活福祉資金」の貸付及び償還指導を行いました。また、新型コロナウイルス感染症対策の「緊急小口資金特例貸付」「総合支援資金特例貸付」の事務手続き準備を行いました。

平成 31 年度三宅島社会福祉協議会決算報告





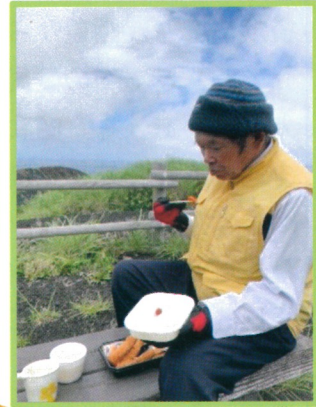
開所日時:月・水・木(10:00~15:00)

三宅村地域活動支援センター「いぶき」は障がいのある方の働く作業場と楽しく過ごせる場所です!

8月のいぶき活動

緑花活動 5・12・19・26日(全水曜日)

外出支援 17日(月)



6月11日(木)お弁当をテイクアウトし、三七山で景色を眺めながら食べました。当日は強い風が吹いていましたが、エビフライ弁当やチキン南蛮弁当等を皆さん楽しく食事されました。梅雨の時期は室内での活動が多くなりますが、さをり織りや刺し子、編み物等、それぞれが得意な作業を真剣に取り組んでいます。晴れた日には、気分転換にドライブや散策も楽しんでいます!

ちけん通信

Vol.16 「ちけん」を利用したいけど…?

Q.

「ちけん」を利用したくて相談したいのですが、坪田の社協事務所まで行くことができません。どうすればいいですか?

地権担当のヤナガワです。ご相談ありがとうございます!バスの都合や天候で事務所に来ていただけない時は、ご相談がある方のご自宅まで、私が訪問させていただきます!また、ご自宅では相談しにくい…という方は、自宅以外で落ち着いてお話ができる場所でお話を聞かせてください。ご相談いただいた内容につきましては、本人の許可なく、他の方に話したり致しません。まずはお気軽にご相談ください!ささいな心配ごとの相談が大きな困りごとの解決につながります。電話、IP電話、メールなど、三宅島社協「ヤナガワ」までご連絡ください!



そうだ!

社協の地権に

相談して

みよう!

「地権(ちけん)」では、判断能力に心配がある方を対象として、福祉サービスの利用に関する相談に応じ、助言や情報提供を行う事で本人による選択や契約を支援する事業です。



懐かしのマイ・ストーリー

もう一度、あなただけの物語、聞かせてください。

片寄京子さん
の物語

今月号のマイストーリーは以前社協だよりに掲載させていただいたバックナンバーのマイストーリーを掲載させていただきます。当時の社協だよりはまだカラーではなかったので当時の素敵な写真もあわせてご覧ください。

「三宅島」という所は人が人として生きれる場所。



現在の片寄さん

昭和4年7人兄弟の2番目として関西で生まれた片寄京子さん88歳。横浜で育ち、両親からとても大切に育てられた幼少期だった。大人になり、知人の紹介で開業したての薬局で働くこととなる。その薬局を開業したのがのちの夫となる和光さんであった。昭和27年に和光さんと結婚した。夫の和光さんは皆さんもご存知の通り、島で初めて薬局を開き、接骨院も開院し多くの島民を救いました。和光さんは書家でもあり個展なども開いていたそうです。昭和31年、27歳の時に三宅島に移住した。夫の体が弱かったので、友人に「保養するなら三宅島がいいよ。」とすすめられたのだ。夫は三宅島を下見に行き三宅島がとても気に入り、自分たちが住む家まで借りてきてしまったのだ。行ったことも見たこともない、ましてや地図にも載っていない場所に行くのはとても嫌だった。でも、夫の感性を信じ、夫と一緒に三宅島に来た。三宅島での暮らしはガスも水道もない、電気は夕方の5時からしか使えない、ましてや電話も引いていなかった。今まで暮らしていた都会の暮らしから一変した。でも、わからない事、できない事は島の人たちが教えてくれた。助けてくれた。とにかくみんな温かかった。当時の三宅島での暮らしがどんなに不自由な暮らしだったか、誰でも容易に想像できる。しかし、片寄さんは「何の不自由もなかったわよ。」と笑った。ただ、怖いものはあった。唯一怖かったのは移住してからすぐにやってきた「台風」だったという。風でガラスが割れ、屋根のトタンは太巻きのようにぐるぐると巻き、怖くて怖くて息子を抱きしめながら戸袋に隠れたのを思い出すという。台風はとても怖かった。でも、次の日の空は今まで見たことないほど清々しい空だった。都会で生まれ、都会で育ち、でも、何も無い三宅島に来たら「生きている」と感じた。「三宅島こそがひとの住む場所だ、人が生きる場所だ。」と思った。三宅島での暮らしはどんなことも新鮮でキラキラ輝いて見えた。自分を三宅島まで連れてきてくれた最愛の夫、和光さんは平成22年4月に亡くなった。今の楽しみは「神着サロン」でのゲームや体操、おしゃべりが元気の素となっている。ひとりの時間はハーモニカを演奏して楽しんでいるという。お話を聞かせて頂いて、改めて京子さんは「憧れの女性」だと思いました。京子さんの「自分への希望は捨てちゃダメ」という言葉にとっても感動しました。どんな時代でも、どんな場所でも、どんな人でも「自分への希望」を持って生きるべきだと思います。私も絶対に「自分への希望」は捨てません。三宅島を愛し、三宅島に愛された片寄さんのマイ

ストーリーでした！京子さん急な取材のお願いを快く受けて頂きありがとうございました！本当に感謝しております。いつまでもみんなの憧れの女性でいてください！三宅島への愛に満ちたストーリーと京子さんとの楽しい取材の時間本当にありがとうございました！（取材日：平成30年3月2日）

現在、片寄さんは90歳！現在の写真でもわかるように、とてもお元気に過ごされています！大きなケガもなんのその。活発的な京子さんには自粛生活は少し刺激が足りないようで「退屈だわ…」とおっしゃっていました。私も京子さんといつもの楽しいおしゃべりができる日を、首を長くして待っていますよ！10年後100歳でのマイストーリーの再登場お待ちしております！京子さん、大好き！



平成30年当時の片寄さん